

局所的腐朽による木橋の固有振動数の影響

7022548 米谷尚輝

老朽化が進む橋梁が増加し維持管理の重要性が高

目視や打音検査
…劣化の評価は定性的

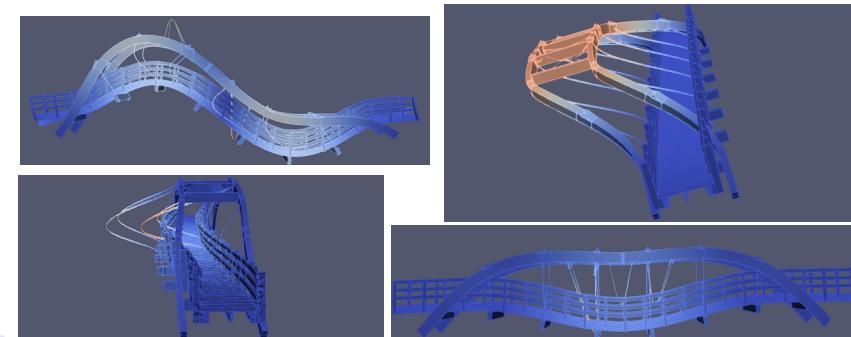
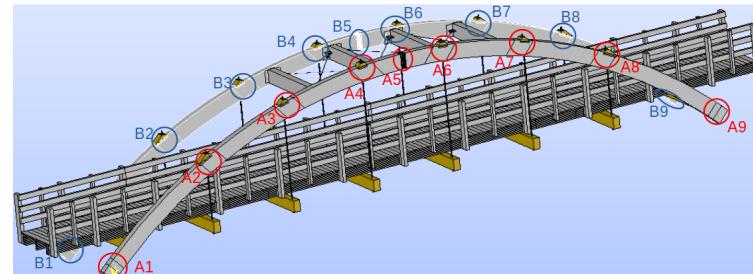
固有振動数による劣化の評価
…定量的な評価が可能！



腐朽箇所を作成して解析



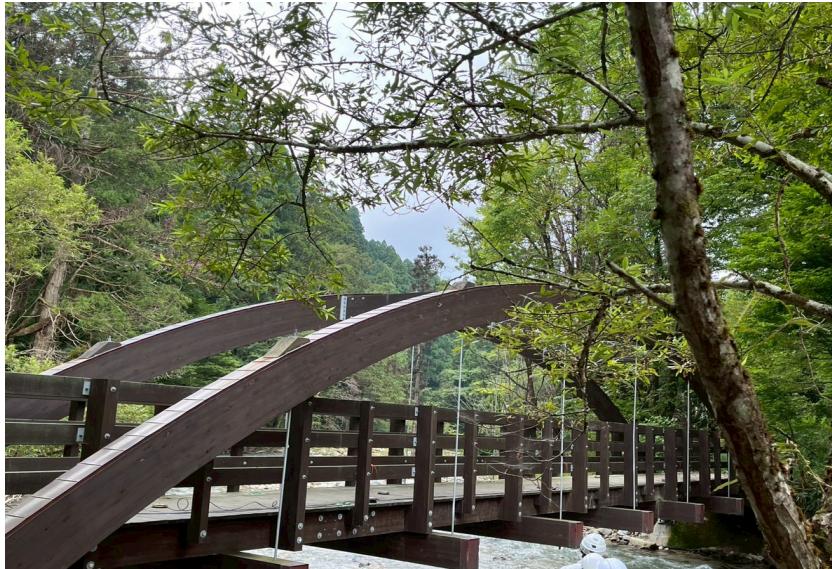
橋を3Dモデル化



橋全体の固有振動数への影響を検討

対象橋梁

<めおと橋>



橋種	中路式2ヒンジアーチ橋	
施工年度	2020年	
使用材料	アーチ・床桁・縦桁 横構・床版・高欄部	秋田スギ集成材 秋田スギ製材
橋長	23m	
支間長	20m	
幅員	1.5m	
所在地	秋田県秋田市仁別国民の森	
用途	歩道橋	

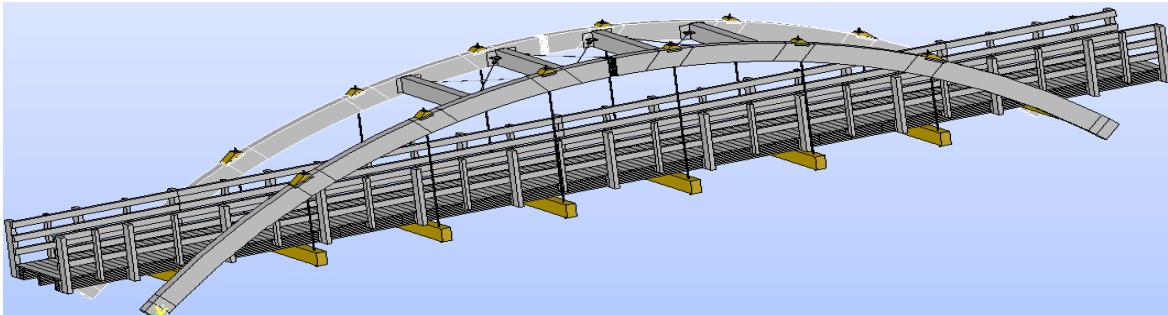
解析モデル

解析ソフト「Salome-meca」で3Dモデル化

<めおと橋>

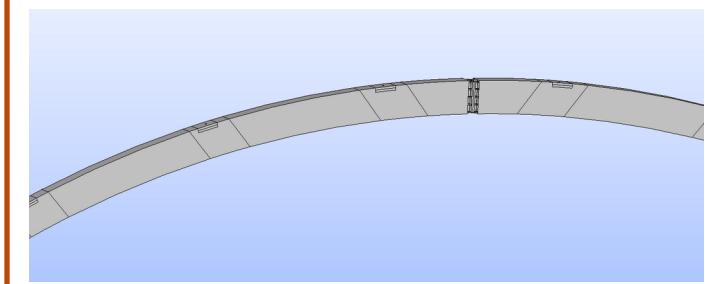
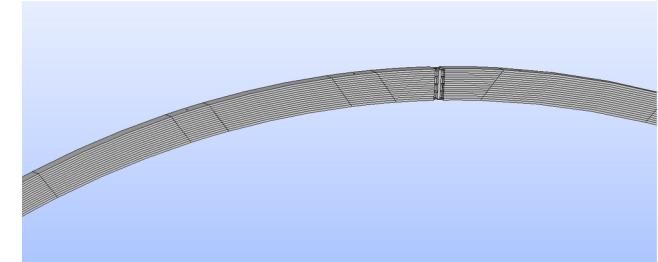


先行研究で作成されためおと橋の3Dモデル一部を変更して使用



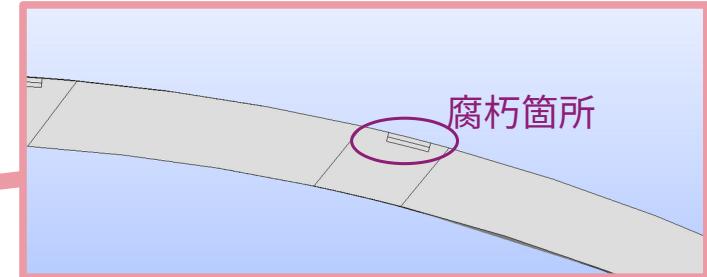
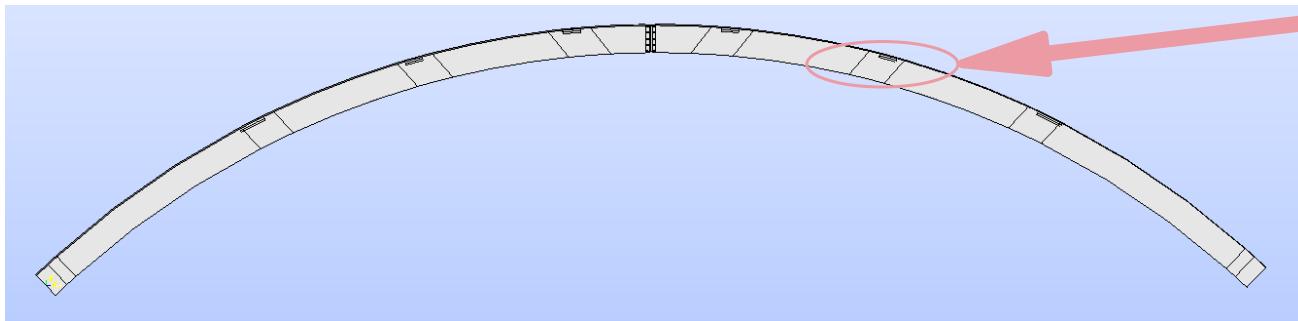
主な変更点

アーチ部分のラミナ取り除く



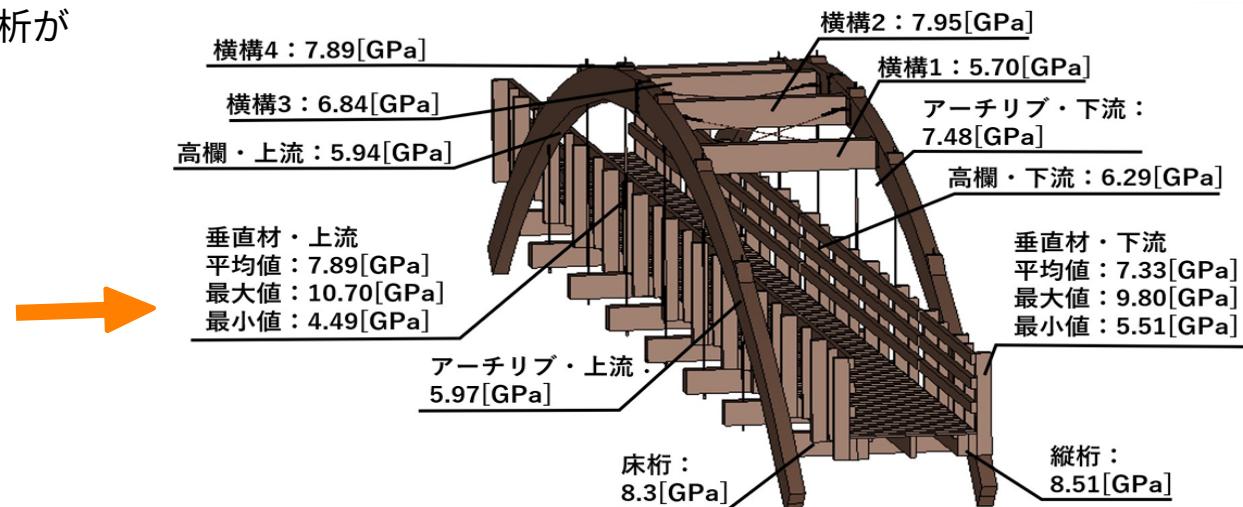
解析モデル

アーチを18個の領域に分割し、異方性を持たせる

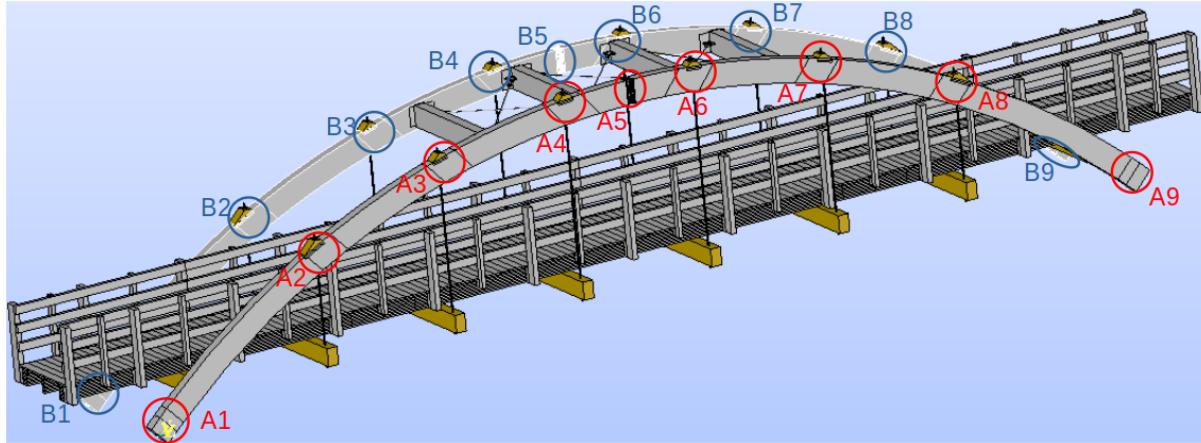


(異方性で解析を行う前に等方性で正常な解析ができるか検証)

先行研究で得られたデータを元に健全時のヤング率を設定



解析方法



上記の腐朽箇所を1箇所ずつ段階的に腐朽させる



健全時のヤング率から1倍, 0.9倍, ..., 0.3倍

(複数箇所を同時に腐朽させることも検討中)

解析結果を用いて、
固有振動数とヤング率の関係を分析

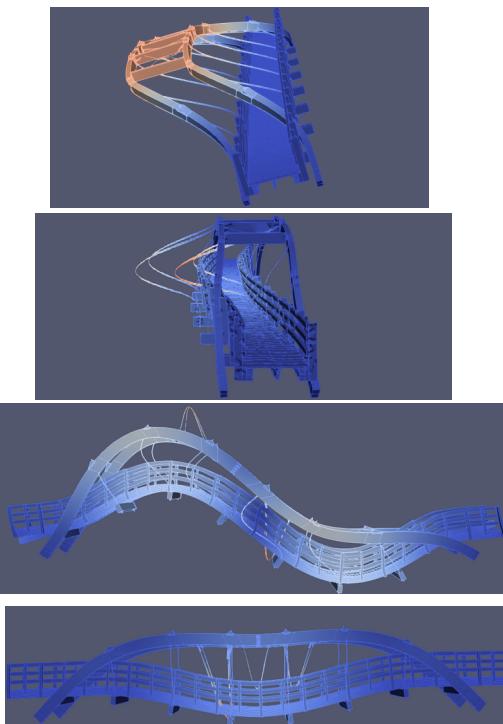
(分析方法の一つに重回帰分析を検討中)

重回帰式

$$y_k = a_{k_{\text{水平}}} \cdot x_{\text{水平}} + a_{k_{\text{鉛直逆対象}}} \cdot x_{\text{鉛直逆対象}} + a_{k_{\text{ねじれ}}} \cdot x_{\text{ねじれ}} + a_{k_{\text{鉛直対象}}} \cdot x_{\text{鉛直対象}} + B_0$$

解析結果

解析から得られた固有振動数を先行研究の解析値と比較



	先行研究の 解析値 (Hz)	本研究の 解析値 (Hz)	相対誤差 (%)
アーチ水平1次	1.83	3.734	104.04
水平対称1次	7.88	16.85	113.83
鉛直逆対称1次	5.79	14.20	145.25
鉛直対称1次	13.50	16.36	21.19

解析値に差が生じた原因

- 数値の設定の誤り (例: 密度, ヤング率)
- 異方性を適用していない
- モデルの一部変更時のミス

今後の課題

- 数値やモデルの設定の見直し
- 異方性の適用
- モデルの一部のみ適用して解析



解析値の精度を上げる